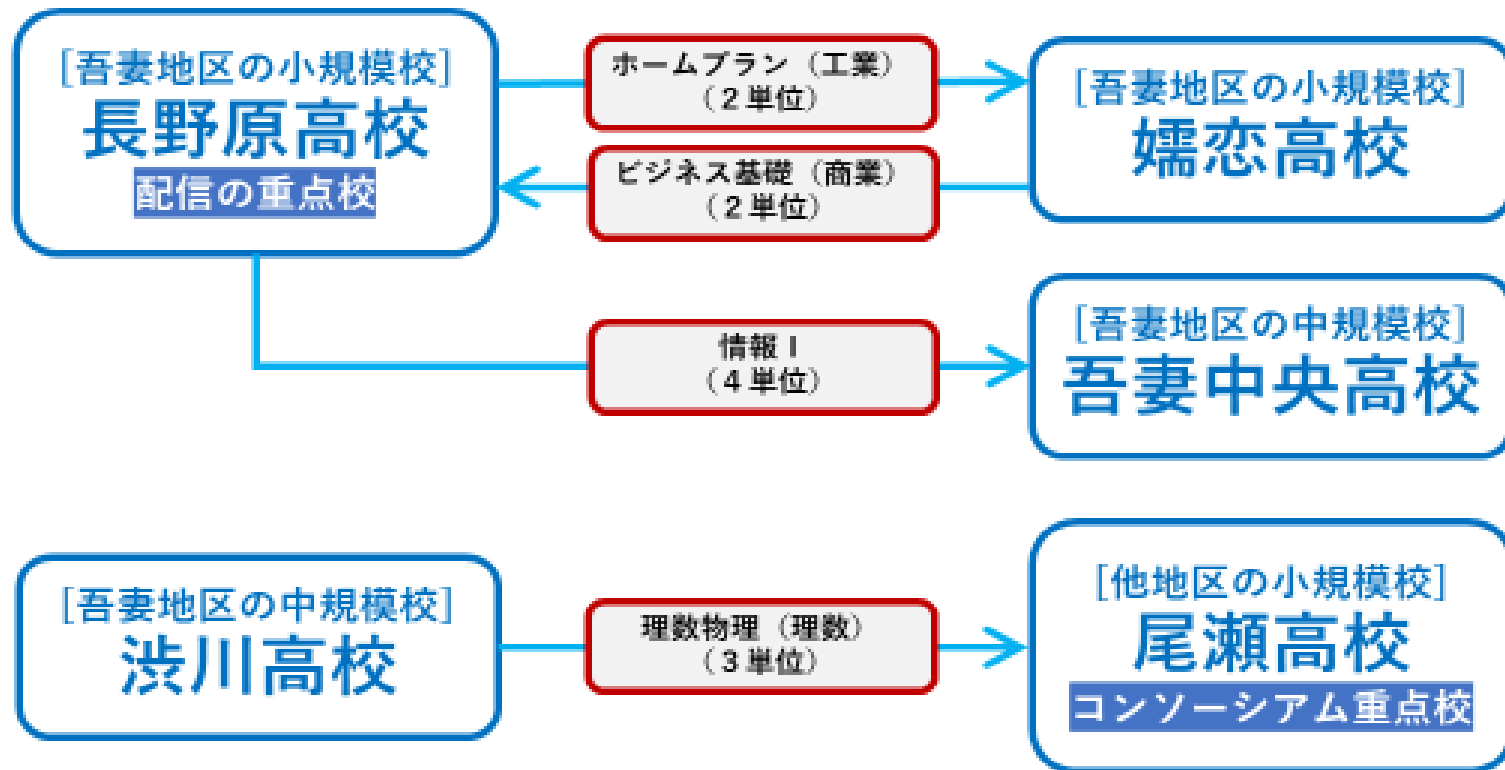


【群馬県】最終年度の実施体制

ネットワークを構成する5校の関係性（イメージ） [令和5年度]



- 中規模校から小規模校への配信は、非常勤講師の雇用が必要となるなど、継続に関する課題が多い。

導入背景・ねらい

中山間地の小規模校の教育環境充実を図る

＜遠隔授業の実施＞

- ✓ 遠隔授業実施に関する知見獲得
- ✓ 多様な選択科目の開設
- ✓ 大学進学ニーズへの対応
- ✓ 「情報」の教員不足への対応

＜コンソーシアムの構築＞

- ✓ 社会に開かれた教育課程の一層の実現
- ✓ 各コンソーシアムが連携した取組の実施
- ✓ より具体的な連携の在り方模索

導入背景・ねらい

中山間地の小規模校の教育環境の充実を図る

<遠隔授業の実施>

◎遠隔授業実施に関する知見獲得

○多様な選択科目の開設

△大学進学ニーズへの対応

△「情報」の教員不足への対応

<コンソーシアムの構築>

- ✓ 社会に開かれた教育課程の一層の実現
- ✓ 各コンソーシアムが連携した取組の実施
- ✓ より具体的な連携の在り方模索

◎遠隔授業実施に関する知見獲得

- ・遠隔授業のための授業づくり(定期テストや評価)
- ・送受信担当双方が協力した実施体制

○多様な選択科目の開設

- ・教育課程の共通化による授業実施
- ・受信側の体制の在り方

△大学進学ニーズへの対応

- ・想定したニーズが限定的である

△情報の教員不足への対応

- ・全ての県立高校で情報の免許を持つ教員が指導(非常勤含む)
- ・「指導と評価の一体化」実現のためには受信側生徒6名程度まで

◎遠隔授業実施に関する知見獲得

✓専用システムの利用

→ 対面授業に近い形式の遠隔授業を実現



授業者からの解説を聞く様子
(場所: 孺恋高校)



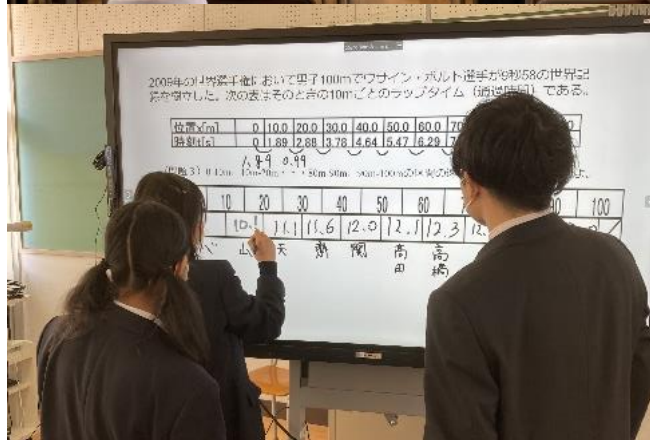
授業者からの解説を聞く様子
(場所: 長野原高校)

授業者の映像と電子黒板の配置を工夫

受講生徒の93.1%が遠隔授業に「満足」と回答

6 ◎遠隔授業実施に関する知見獲得

✓意識的に生徒の活動や対話の場面を増やした授業作りをすることが遠隔授業のポイント



専用システムはメリットが多いが、予算の確保が課題

導入背景・ねらい

中山間地の小規模校の教育環境の充実を図る

<遠隔授業の実施>

- ◎遠隔授業実施に関する知見獲得
- ◎多様な選択科目の開設
- △大学進学ニーズへの対応
- △情報の教員不足への対応

<コンソーシアムの構築>

- ◎社会に開かれた教育課程の一層の実現
- ◎各コンソーシアムが連携した取組実施
- ◎より具体的な連携の在り方模索

◎社会に開かれた教育課程の一層の実現

- ・学校と地域がWIN-WINになる関係の構築
- ・地域連携による取組の教育課程への落とし込み

◎各コンソーシアムが連携した取組実施

- ・地域を超えたコンソーシアム間での合同授業実施
- ・異なる学科間での探究相互発表の実施

○より具体的な連携の在り方模索

- ・地域魅力化プラットフォームと連携したプログラム作成やコーディネーターの配置(孺恋コンソ)
- ・地域関係者(首長、議長、教育長等)を招いた学校の現状に関する協議会の実施(尾瀬・長野原・孺恋コンソ)

9 ◎社会に開かれた教育課程の一層の実現

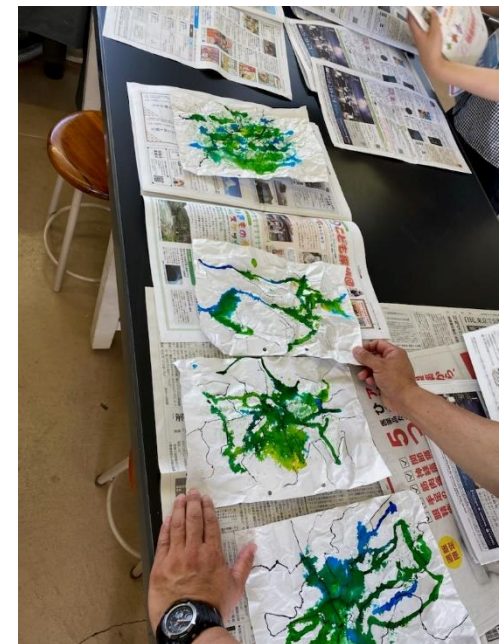
- ✓ 継続的な取組による活動の精選・高度化
→ 地域にとって学校がなくてはならない存在に
- ✓ 取組の有効性調整するための緩衝機能
→ 取組の価値が高まりWIN-WINに



シラネアオイの植林・保全活動
(尾瀬高校)



中之条ビエンナーレ(芸術祭)実施との関わり
(吾妻中央高校)



○より具体的な連携の在り方模索

- ✓ 地域魅力化プラットフォームと連携した学校魅力化のためのプログラム作成やコーディネーターの配置（孺恋コンソーシアム）
 - ✓ 地域関係者（首長、議長、教育長等）を招いた学校の現状に関する協議会の実施（尾瀬・長野原・孺恋コンソーシアム）
- 外部機関との連携や、小規模校の取組や課題についての共有機会の設定を、これまでの連携・協力を超えた、新たな新たな協働の形を見い出すきっかけに

CORE事業3年間の総括

<成果> 遠隔授業実施のための手ごたえを得た

- ・遠隔授業システム(機器)の運用や体制整備
- ・遠隔授業に適した授業づくりや評価方法等
- ・教育課程の共通化を含む多様な授業配信

<課題> 想定を上回る展開の困難さ

- ・配信校の負担が過大で理解が得にくい
- ・配信に応じた適切な人員配置が難しい
- ・継続的な予算確保の必要性

→ 再編整備の方向性と遠隔授業の実施について整理が必要。第2期高校教育改革推進計画を進める中で、その取扱いも含め、遠隔授業の在り方について検討を進める

CORE事業3年間の総括

<成果> 地域協働の充実による学校の機能強化

- ・WIN-WINの関係で地域と学校が結びつく
- ・地域と連携した教育プログラムの充実(探究)
- ・コンソーシアム間での交流機会の増加

<課題> 次のステップに向けた関係性の構築

- ・小規模校の未来に向けた経済的・人的連携
- ・関係者の一層の理解促進

→ コア事業で構築した地域コンソーシアムの取組の一層の充実を図ると共に、少子化・過疎化が進行する中での学校の現状を地域と共有し、次のステップの関係性構築に向けた検討を進める